

しかし、永正七年（一五一〇年）

六月六日、兼載は五十九歳を最後に  
して、旅先の古河でなくなりました。  
先生の心敬や先輩の宗祇と同じよう  
にして、まさに旅に生き旅に死んだ  
一生でした。

こうして、会津の生んだすぐれた  
文学者、猪苗代兼載は、室町時代の  
はげしくゆれ動く世の中にあつて、  
後に俳句としてさかんになる以前の  
連歌の世界で、全国を旅しながら大  
きな影響をあたえたのです。

